OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	特集「儒学―蜀学と文献学―」について
Author(s)	湯浅, 邦弘
Citation	中国研究集刊. 2017, 63
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70141
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

特集「儒学――蜀学と文献学――」について

平成二十八年（二〇一六）十二月十日・十一日、四川大学古籍整理研究所の研究者をお招きして、大阪大学で「儒学――蜀学と文献学――」国際シンポジウムが開催された。四川大学は、中国四川省成都にある総合大学で、北京大学や復旦大学などと並び、中国の重点総合大学に指定されている。特に儒教研究には定評があり、『儒蔵』や『全宋文』といった大冊の刊行でも知られている。

一方、大阪大学も、江戸時代の漢学塾「懐徳堂」を精神的源流とする総合大学で、現在、附属図書館は、「懐徳堂文庫」約五万点の貴重資料を収蔵し、大学院文学研究科には、懐徳堂研究センターが置かれている。四川大学古籍整理研究所との学術交流は、一つの宿命であったようにも感じられる。

また、このシンポジウムには、もう一つ重要な意味が込められていた。それは、名古屋大学と大阪大学との学術交流である。平成十二年（二〇〇〇）に第一回の交流会を大阪大学で開催し、以降、毎年秋、交替で名古屋大学と大阪大学とを会場として、中国哲学・中国文学研究室の教員・学生・関係者が一堂に会している。そこで、この交流会をシンポジウムに合体させることとした。

二日間にわたったシンポジウムでは、四川大学・名古屋大学・大阪大学の関係者計十名が講演・研究発表を行った。その後、発表原稿を修訂の上、投稿していただき、とりまとめたのが、この特集である。また、このシンポジウムにはご出席いただけなかった四川大学古籍整理研究所所長の舒大剛教授から、別途玉稿を賜り、巻頭に掲載させていただいた。

関係各位に厚く御礼申しあげるとともに、この特集が日中の学術交流に寄与することを大いに期待したい。

大阪大学大学院文学研究科教授
湯浅邦弘